

議会だよ入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No. 141

2007年4月27日



長いあいだありがとう(吉原保育所)

3月定例会

「地域力の向上」に向け積極予算(平成19年度予算)	2P~3P
19年度税収が増えた要因は(委員会レポート)	4P~5P
副町長に林 榮佐雄氏を選任	6P
町政を問う 代表・一般質問(11議員)	7P~17P
入善町に移り住んで・入善むかし話	18P

平成19年度予算 の概要

3月議会の
あらまし

3月議会は、6日から16日までの11日間開会し、町長から提案のあった平成19年度一般会計などの予算、18年度補正予算、工事の請負契約、副町長と固定資産評価審査委員会の選任などを審議し、すべて可決した。
また、請願1件、陳情1件を審査したほか、9日、12日の2日間にわたり代表・一般質問が行われ、11人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

平成19年度予算額

一般会計

104億2886万円

特別会計

- ・ 国民健康保険 22億7531万円
- ・ 老人保健医療 28億8751万円
- ・ 簡易水道 4069万円
- ・ 育英奨学資金 609万円
- ・ 下水道 23億9731万円
- ・ 農業集落排水 8億4486万円

予算の特徴

歳入では、好調な企業活動や税源移譲などの制度改正により、町税が大幅に増えた。
歳出では、自立のあるまちづくりを目指すため、地域課題や町民ニーズに

積極的に応え、「地域力の向上」を推進させる予算とした。

その結果、一般会計で前年度比10・2%増となる積極型予算となっている。



「うるおい館(仮称)」安全祈願祭

予算の基本方針

(一)安全・安心の まちづくり

災害から被害を最小限に食い止めるため、区や班単位での組織体制の強化やリーダーを育成し、地域防災力の向上を図る。

また、新しく泡圧縮装置を備えた消防ポンプ車を購入し、初期消火の強化を図る。

さらに鳥獣被害が増えていることから、新たに「入善町野生鳥獣被害対策連絡協議会」を設置する。

また、森林の再生など「里山再生整備事業」に取り組むほか、電気柵の設置などを行う。

「地域力の向上」に向け積極予算

(二)食育と健康

食育推進計画を策定するとともに、「子供食育イベント」や「入善っ子食育教室」などを開催し、食育を通して健やかな心と体を育む。

また、メタボリックシンドローム対策など、医療制度改革に向けた体制整備に取り組む。

(三)産み育てやすいまちづくり

少子化は地域活力の低下を招くことから、これまでの事業の推進に加え、要望の高い学童保育を新たに桃李小学校下で実施するなど、総合的な子育て支援に取り組む。

また、子供たちへの「心の教室相談員」を設置するなど、教育課題への対応を図る。

(四)高齢化社会への対応

介護予防の推進のため

地域包括支援センターの充実を図り、保健センターと連携して介護予防に取り組む。

また、高齢者の健康増進・交流の場として人気の高いパークゴルフ場の増設を行う。

(五)地域再生のまちづくり

スマートICの全面開通に向け整備を図る。

また、市街地活性化の核となる「うるおい館（仮称）」の工事を進め、来春のオープンを目指す。

さらに、町の基幹産業である農業は、農業経営の法人化や機械購入などへの支援を行い、売れる入善産米を目指した高品質な米作りを推進する。

また、環境問題への取り組みとして、菜たね栽培を活用した「資源循環型農業」への支援を行う。

18年度 3月補正予算

財政調整基金積立て

2億円

町税、地方交付税の歳入増を受け、余剰金を財政盤強化を図るため基金として積立てる。

米山中学生文化スポーツ基金積立て

500万円

小・中学生の文化およ

びスポーツ振興のため、入善工業様から寄せられた篇志を基金として積立てる。

入善中学校の耐震工事

1億3100万円

入善中学校普通教室棟の耐震補強工事と大規模改造を、国の補正予算に合わせ実施する。



北信越大会出場者へ激励

常任委員会レポート

総務 常任委員会

19年度歳入の税収が増えた要因は

Q 19年度税収が24.1%、7億2000万円増えた要因は何か。

A 個人町民税は税源移譲などの税制改正や給与所得の増が見込まれ、前年比44.1%、4億4100万円の増。法人町民税は企業活動が好調なことから25.8%、5100万円の増。固定資産税は、新規企業立地や既存企業の設備投資などにより13.7%、2億2300万円増などを見込んだ。

まちづくり交付金の内訳は

Q 国庫補助金として、まちづくり交付金4

億700万円の内訳は。

A 入善ICから入善駅のエリア間で、市街地活性化につながる事業に、40%補助される。現在11件受けている。

ハード事業では、「うらおい館(仮称)」建設、中央通り線など幹線道路整備、町民会館改修、図書館の電動書架設置など。

ソフト事業では、七夕祭り、観桜会、ライオン祭り、扇状地マラソンなどである。

Q 国の補助は単年度か。

A 17年から21年の5カ年事業であり、国交省の目玉事業である。長く続けてほしいと要望している。

行革での職員数の削減は限界では

Q 行革のなかで、平成19年は10名の職

員が減った。事務部門の職員数は限界に近いのではないか。

A 類似の自治体との比較では、一般事務職員数は適正な範囲内である。

よほどの機構改革がなければ、一般職については今後減らす予定はない。

包括支援センターのケアマネは不足か

Q 介護要支援者のケアプランづくりで、外部から派遣を受けるのはなぜか。

A 一人30件程度しか対応できず、町社協、おあしす新川、舟見寿楽苑から3人の派遣を受け6人体制で取り組む。19年がピークと考えている。

こんな意見も

◎個人町民税の制度改正については、町民に十分周知するとともに、県下トップの徴収率を維持するよう努力せよ。

◎病後児保育の実施は高く評価する。今後は町中心部での実施についても検討してほしい。

◎資源ゴミが、ゴミとして出されゴミの量が減っていない。外国人を含め町民に繰り返しPRする必要がある。

◎19年度は、入善ICが開通する。積極的にPRして地域経済の活性化や観光に活かしてほしい。



整理整頓された上原再生広場



利用されていない野外ステージ

産業教育 常任委員会

利用度の少ない施設
の見直しは

Q 利用度が少なく、管理維持費がかかる野外活動施設など、町の公共施設のあり方を見直す時に来ているのでは。

A 地元と話をしていく必要もあるが、利用の少ない施設は解体も含め検討する。

Q 農政の支援制度が多く示されているが

A 本年度、国から新しい支援策が多く

示されている。

町は国の施策に左右されず、将来を見据えた施策が必要ではないか。

A 国では、農政の大転換を図っている。町も水田ビジョン策定中であり、今後の町の指針になるのではと考えている。

集落営農については、地区で十分な話し合いを進めて欲しい。

アワビ養殖の実験 に疑問

Q 本年度計画する、佐賀県の企業が実施しているシステムの実験に疑問がある。

A 同社は、表層水しか利用していない。失敗した時に企業は責任を持つのか。

A 現地視察では企業秘密もあり、システム全体は見せてもらえなかった。

深層水も、表層水もうまくいくと言っていた。企業の責任範囲はわからない。

Q アワビ養殖事業は技術の問題だけではない。実験が成功しても、コストの面でうまくいくのか。

A 安い単価で稚貝の仕入れができれば、採算性はあると思う。

暖冬時の除雪 委託費は

Q 今冬のように積雪が少なく、出動機会の少ない委託業者への配慮は。

A 町の除雪委託契約は、県に準じている。県も見直しを検討しており、町も県を参考にしたい。

こんな意見も

◎町が負担金を出している下山用水組合の人員費を圧縮し、黒東合口用水組合並みにすべきである。

◎アワビ養殖実験の失敗は許されない。総合的な判断をせよ。今までの失敗が漁協の足を引っ張っている。

今回の実験の責任の取り方、持ち方を再考して実施してほしい。

◎黒部川扇状地研究所の活動実績は多い。このような研究所を町の発展に活用できないか。補助金を増やして、町の活性化のための知恵を借りることも必要ではないか。



出動を待つ除雪車

請願・陳情

◎ 入善町藤原247番地の暗渠化に関する請願書

請願者 藤原地区区長

藤原地区内における、排水路の転落防止対策、増水による法面の欠落防止の早期実施を求める請願。

賛成全員で採択とした

◎ 公共サービスの安易な民間開放に反対し、国民生活の「安心・安全」の確立を求める陳情書

陳情者 富山県国家公務員労働組合協議会

国民の権利保障を後退させる公務・公共サービスの民営化や「市場化テスト」の安易な導入を行なわれないことを求める陳情

反対多数で不採択とした

工事の請負

入善中学校体育館棟耐震補強及び大規模改造工事請負契約について可決した。

○ 建築主体工事

請負者 ノザワ・嶋田建築共同企業体
請負金額 1億4248万円

うるおい館（仮称）建設工事請負契約について可決した。

○ 建築主体工事

請負者 日本海建興・笹島建設共同企業体
請負金額 6億480万円

○ 電気設備工事

請負者 鳥羽システム・松井電気商会共同企業体
請負金額 1億6684万円

○ 空調設備工事

請負者 新菱冷熱工業・上田管工事共同企業体
請負金額 8241万円

下山用水組合議会議員の選挙

3月31日で下山用水組合議会議員の任期が満了となり、入善町選出組合議会議員6名が選出された。

西島 久雄氏	（墓ノ木）
坪野 好満氏	（下 山）
水野 宣昭氏	（下 山）
西島 彰男氏	（小 杉）
吉原 有二氏	（藤 原）
赤川 勇氏	（古黒部）

副町長の選任

4月から設置となる副町長に林榮佐雄氏を選任することに同意した。



林 榮佐雄氏
入善町新屋

入善町固定資産評価

審査委員会委員の選任

3月19日で任期満了となる固定資産評価審査委員に朴木静志氏の再任に同意した。



朴木 静志氏
入善町道古

元島議長 県町村議長会長に就任

2月22日に開かれた富山県町村議長会長会の総会において、町議会の元島正隆議長が会長に選出された。

臨時議会

富山県後期高齢者医療

広域連合議会議員の選挙

1月22日の臨時議会において、入善町長米澤政明氏を選出した。

19年度予算の基本方針、重点施策は 町長 将来を見据えた 「地域力の向上・地域再生元年」とした



「うるおい館(仮称)」のイメージ図

問 平成19年度予算の基本方針、重点施策を示せ。
米澤町長 将来を見据えた「地域力の向上・地域

再生元年」とした。重点施策として、
①地域防災、防犯力の向上など安全・安心のまちづくり
②食育と健康のまちづくり推進
③子育て支援
④ケアネット事業、要援護者支援など、高齢化社会への対応、地域支えあいのまちづくり
⑤地域活力の創出として、地域イメージや地域ブランドのPR、企業誘致の推進、農業支援、市街地の再生を図る。

問 福祉会館取り壊し後の跡地整備計画を示せ。
鍋谷企画財政課長 東洋紡社宅跡地、花月公園を含め、「中心市街地空間整備計画」の策定を進めている。
駐車場、公園など市街地に人々が集い、回遊に必要な機能の充実、災害時の避難場所なども視野に検討している。

品目横断的経営安定 対策の諸問題は

関係機関が一つになり
諸問題に対処

問 品目横断的経営安定対策の諸問題は。
浜田農水商工課長 個別経営体と集落営農組織間

入善町教育の今後の 進め方は

教育課題に対して力を
合わせ取組む

①人権教育と心の教育を重視し、学校へのカウンセラーや、心の相談員の

②一人ひとりの個性を重視し、きめ細かい教育ができるよう、少人数指導のための教員の加配に努める。
知的、聴覚、情緒など障害児のための特別支援教室を設置する。
③教科指導では基礎基本の重視と確かな学力の保証を目指す。
そのために年間授業時間の確保と、教職員の研修の充実と努めるよう指導助言をする。
④年間を通して、教師自身が自己評価を行い、学校自体も内部評価や学校評議員などの外部評価を行い、教育の改善に努める。
また、社会に対する学校の信頼性を高めるよう、指導や援助を行う。

問 教育基本法の改正を町教育にどのように活かすのか。
柚木教育委員長 今日、教育課題に、学校、家庭、町が力を合わせ、取組むことが重要と考える。
そこで、

①人権教育と心の教育を重視し、学校へのカウンセラーや、心の相談員の

②一人ひとりの個性を重視し、きめ細かい教育ができるよう、少人数指導のための教員の加配に努める。
知的、聴覚、情緒など障害児のための特別支援教室を設置する。
③教科指導では基礎基本の重視と確かな学力の保証を目指す。
そのために年間授業時間の確保と、教職員の研修の充実と努めるよう指導助言をする。
④年間を通して、教師自身が自己評価を行い、学校自体も内部評価や学校評議員などの外部評価を行い、教育の改善に努める。
また、社会に対する学校の信頼性を高めるよう、指導や援助を行う。



五十里 隆章 議員 (アクセス21)



深層水関連商品の販売

財政運営と地方債返済計画の全体像を示せ

町長 下水道使用料で130億円 交付税130億円で償還

問 一般会計の地方債残高は、19年度末で118億円程となる。
下水道債と合わせると現在250億円の借金と

なるが、健全財政をいかにして堅持するか。地方債返済計画の全体像を示せ。

町長 一般会計での公債費のピークは、学校大規模改修の返還が始まる平成20年度で、実質公債比率は14%台になる。
下水道総事業費を360億円と見込んでおり、そのうち地方債の総償還額は約260億円である。償還は、使用料で130億円、交付税で措置される130億円で30年間の返済を考えている。
いずれにしても、財政力向上の施策を進め健全財政の堅持を私の使命と考え、取組んでいきたい。



本多 幸男 議員 (ウオーラム入善)

職場、職務責任体制は万全といえるか

職場の責任体制は、施設管理者たる町が負う

問 保育士、調理師は臨時、パート職員が増えていく。職員定数を決める場合、「最初に削減ありき」になっていないか。万一、事故があった場合の責任体制は万全か。
本多助役 本町は、類似の自治体と比べると保育所数や、学校部門の自炊方式により超過が目立つ。16年度の職員数301人を10年後に240人としてほしい。
職場の責任体制は、施設管理者たる町が負うものであり、事故を未然に

防止する対策に留意したい。

学校助手、施設営繕部門は業務の民間委託を進め、退職者の補充は原則として行なわない。

アワビ養殖の大胆な方向転換、技術革新による実証実験を行う

問 海洋深層水事業は、総額16億9000万円の巨費を投じ、9年目を迎えた。しかし、どの事業もうまく軌道に乗っておらず、大胆な方向転換が必要ではないか。アワビ養殖も技術革新が急がれる。
農水商工課長 今まで取組んできた事業内容全てを総点検し、企業誘致を含め推進策を講じたい。

アワビ養殖は、加温コストの高騰など難関が多く休止している。新年度からオゾンと紫外線などを活用する実験で、技術の確立に支援する。

温かい真心のこもった学校給食を子や孫に検討委員会の答申を尊重し、町民理解を得る

問 新年度から学校給食で一部共同調理方式を試行する計画だが、少し強引過ぎないか。
PTAの反対意見も多くあり、保護者町民の意見を聴取すべきだ。
米島教育長 給食の質やアレルギー対応も現状とあまり変わりなく行える。町民の理解を得るよう一歩ずつ進めたい。

企業誘致や箱物建設に多額の税金を投入し なぜ行革で学校給食の共同調理なのか 教育長 共同調理方式で大きな経費節減になる



みんなでおいしくいただく学校給食

問 サンリッツの進出は大歓迎だが、町が同社に6億円余の土地を無償提供した上に、さらに用地など取得に5億円を払うのは納得できない。

「うるおい館(仮称)」の

建設費は当初8億円余から12億円余に膨らんだ。必要と思えない設備もあり、当初の予算で納めべきだ。

町は、1企業や箱物に多額の税金を投入しながら、年間わずか2000万円余削減するのに、学校給食の共同調理を進めるのは理解できない。

黒東小学校の工事による配送給食では、全児童の3割、高学年の5割が「まえよりうまくない」と答えている。

今の給食を続けるべきだ。

町長 企業立地は、雇用の創出、人口対策、将来の税源の涵養、地域経済の活性化などに相当の効

果が期待できるものであり、積極的な誘致運動と一定の投資や支援が不可欠である。

今回の投資も十分な効

果があると考えている。

企画財政課長 「うるおい館(仮称)」の不要との指摘の部分は、サロンやギャラリーなど多くの人々が自由に集い、時間を過ごすスペースであり、

にぎわいや交流促進に欠かせない都市空間である。うるおい館は、中心市街地活性化の起爆剤として期待するものである。

教育長 共同調理方式では、10年で2億6000万円

の大きな経費節減となる。また、質の低下などが懸念されているが、

十分に配慮し、試行を通して努める。

中核農家の経営が成り立つよう、町は責任を果たせし集落営農を推進する

個別経営の方とも連携

問 今後、国が支援する農家は、個人で4戸以上、集落営農組織で20戸以上の耕作者に限定される。

集落営農への参加者が、中核農家への委託をやめるので経営が危うくなっている。町は、中核農家の経営が成り立つよう、責任を果たすべきだ。

大小を問わず、全ての意欲ある農家が再生産できるよう、国に政策の見直しを求めよ。

農水商工課長 今後、このような問題が極力起き

ないよう、JA、普及指導センターなどと連携をとって、個別経営の方々とも連携しながら、集落

営農が推進されるよう指導していく。

また、農業公社にも十分働きかけ、担い手の経営などに支障がでないよう、優先的に面積を斡旋してもらおう。

除雪業者への委託料の見直しを

今年度は保険料を払い
県の動向をみて対応

問 暖冬で町が委託している除雪業者への支払いが減り、業者は機械の維持が負担になっている。

今年度は、余った除雪費で負担軽減を図り、今後の委託料を抜本的に見直すべきだ。

小森建設課長 今年度の対策として保険料相当額を全業者に対して支払う。

今後は、県や他市町の動向を見極めながら対応する。



松田 俊弘 議員 (日本共産党)



地元の大切な産婦人科医院

地元の産婦人科医院を守るための支援を

町長 子宮がん検診の委託機関として

契約を結ぶ



大橋 美椰子 議員

問 新医師確保総合対策が制定されたが、産婦人科医師と小児科医師の減少により、医師確保対策を推進するとしている。町には産婦人科と助産所がある。待遇の改善策、

あるいは経営に対する支援がないか。
町長 町の委嘱のもと、地元の産婦人科医師に、保健活動や検診事業に協力をいただいている。

問 新年度には子宮がんの施設検診の委託医療機関として契約を結ぶ。
母子保健活動のなかで、十分な連携を図りながら、側面的に支援する。

1万人クリーンアップデーの今年の取組は

地区・住民主体の清掃美化活動を展開したい

問 1万人クリーンアップデー「不法投棄一掃作戦」を、町民あげて取組むとしている。

駅や公園・空家・閉鎖している会社など、各周辺の草刈り、ごみ拾いも計画すべきだ。
田中住環境課長 町民

あがての清掃美化活動を行うことにより、自助・共助の更なる推進を図り、地域の連帯感や地域の向上に努めたい。
区長や関係の皆さんと

十分な協議を行い、地区の実情にあわせ、公園や無人家屋など周辺の草刈りや不法投棄場所の清掃点検などを展開する。
今後も自助・共助による

クリーン作戦を一大町民運動として持続する。
不法投棄の防止や循環型社会の構築を目指し、環境にやさしい安全・安

心なまちづくりを推進していきたい。

地域包括支援センターの総括と今後の取組は

問 昨年4月よりスタートした地域包括支援センターの総括と、今後の課題への取組を示せ。
笹島健康福祉課長 介護保険制度において「介護予防重視」とする改正がなされ、これまでの内容が大きく変わった。
地域包括ケアの拠点として①総合相談支援②虐待防止者や権利擁護③包括的・継続的ケアマネジメント④介護予防マネジメントという4つの機能を担う地域の中核機関としてスタートした。
要介護度1から要支援

への移行者の割合は、年間460名の対象者を見込んでいたが、その半程度に留まる見通しだ。
老人保健事業を含む在宅高齢者宅への訪問活動は、昨年を上回る件数となった。
今後の課題は、試行錯誤もあつたが大きなトラブルはなかった。介護予防事業やマネジメント業務の充実を図ることだ。
そのために、地域包括支援センターの体制の充実、職員の研修に努め、住民一人ひとりに心のこもったサービス提供に努力する。
また、社会福祉協議会が進めるケアネット活動などとも連携を図り、共助による福祉活動をより具体化していきたい。

放流される自噴水の活用を図れ

町長 水が清いイメージは町の宝であり 更に強くアピールする



利活用が待たれる自噴水(神子沢)

問 黒部川扇状地涌水群の神子沢地域から下飯野地域では最近、山手のほうに住宅を改築されることが多い。

そのため、屋敷跡地に相当量の自噴水が使われないまま放流されている。これを生かした水資源の活用を図れないか。

町長 北アルプスの雪解け水が黒部川の急流で磨かれ、平成4年から3年間連続で「日本で一番きれいな川」に選ばれた。その黒部川の水は扇状地に広がり地下深く流れ、良質の「湧き水」となっており、井戸水として日常の暮らしに使われてきた。水が清いイメージは町の宝である。このことを、更に強くアピールしていく。

水の性質に合致する水生植物栽培の試みを

関係機関の協力を求めていく

問 自噴水は年中一定の温度であり大変きれいである。ワサビ、クレソン、セリ菜など、水の性質に合致する水生植物の育成を官民一体で試みてはどうか。

町長 水生の香味野菜は、水の綺麗などところに育つ野菜で、ワサビ、セリ菜などが考えられる。これを、自噴水で栽培されることに着眼されたことは非常に素晴らしい事である。ただ、これらの野菜の

栽培は、他の作物と比べて相当難しいと聞く。

そこで、地域の皆さんが栽培しようとの機運が高まれば、栽培・経営指導などに、県農業指導センター、JAMINA徳農協など、関係機関の応援体制など、協力を求めていきたいと考えている。

生きがいくくりと特産品の開発につなげよ

機運が高まれば協力したい

問 地域の人たちの生きがいくくりと特産品の開発振興策につなげることは考えられないか。

町長 ものづくり、すなわち一つの目的を持って対応することは、地域の

生きがいくくりとなる。

さらに栽培された作物については、朝市や直売所での販売も可能だ。

湧水集落での栽培機運が高まれば、支援する制度もあり町も協力したい。



山下 勇 議員



機敏な動作の消防団

消防本部の広域化に対する町の方針は

町長 町民の理解と安心・安全を 基本に慎重に対応



鬼原 征彦 議員

問 国では「市町村消防の広域化」の基本指針を示し、5年度以内を目標に広域化を実現するよう打ち出した。
広域化に対する町の考えは。

答 国では「市町村消防の広域化」の基本指針を示し、5年度以内を目標に広域化を実現するよう打ち出した。
広域化に対する町の考えは。

問 広域化対象市町村の枠組みについて設定する。
広域化については、地理的条件、交通事情、日常生活圏などを配慮される。

問 岩田消防署長 新築住宅については、建築確認申請が提出された時点で確認、指導している。
既存住宅については、設置の状況を把握することは困難だ。
今後は消防団や婦人防火クラブと協力し、火災予防運動期間中に各家庭の設置指導を行う。

問 岩田消防署長 新築住宅については、建築確認申請が提出された時点で確認、指導している。
既存住宅については、設置の状況を把握することは困難だ。
今後は消防団や婦人防火クラブと協力し、火災予防運動期間中に各家庭の設置指導を行う。

火災警報器設置への 取り組みは 火災予防運動期間中に 設置指導を行う

問 平成17年に火災警報器の設置が義務化された。
本町における火災警報器の設置をどのように把握しているか。

パブリックコメント 手続きの導入は 食育推進計画で試行

問 政策の決定での透明性を高め、公正さを確保するため住民参加のパブリックコメント手続きがある。
地域力を底上げするた

舟川周辺の鳥獣被害 対策の方針は 野生鳥獣被害対策連絡 協議会を設置し対応

問 新年度、鳥獣被害対策として、舟川周辺の緩衝地帯整備をどのように進めるのか。
農水商工課長 鳥獣被害対策は、多くの部門にまたがった総合的対策が必要であり、野生鳥獣被害対策連絡協議会の設置を考えている。
自主防災会とも連携し危機管理意識を高め、正

森づくりの整備は 舟見地区前山で行う

問 県は、新年度から導入する「水と緑の森づくり税」を財源とする森林整備事業に着手する。
本町の「森づくりプラン」はどうか。
農水商工課長 人家や耕地が接近している舟見地区の前山を対象に、里山林整備6号、混交林整備2号の整備を行う。
除間伐、枝打ち、下刈りなどを行い、生物多様性の保全や、野生動物との棲み分け、森林環境教育の場の提供など、19年度から里山の再生整備を進めたい。

「うるおい館」建設による近隣の生活権を守れ 企画財政課長 周辺住民の生活環境に十分配慮する



「うるおい館(仮称)」建設予定地

問 「うるおい館(仮称)」とホテルが建設されるが、近隣住民の生活環境を守るために、次のことに留意されたい。
一、近隣住民の日照権を守ること。

二、建物の北側には、覗き見できないように窓を設置しないこと。
設置が避けられないなら、次のように配慮されたい。

①窓のガラスは、全部不透明なすりガラスを使用すること。

②窓が開閉できぬよう固定すること。

③固定が無理ならば、窓の最上部のみに開閉可能な横に細長な窓を設置すること。

当然のことながら、法を遵守されたい。

企画財政課長 周辺住民の皆さんの生活環境に十分配慮する。

ホテル事業者に対しては、も設計当初から周辺環境

に配慮すべき旨を指導、助言している。

ホテル事業者側では、ホテルの設計概要がまとまった本年1月中旬に、隣接者宅を訪問し、ホテル事業の説明を行ったと聞いている。

町においても、「うるおい館(仮称)」に実施設計完了後の2月9日に、町担当職員と設計事務所職員が、近隣住民のご家族らと面談した。

その際に、「うるおい館(仮称)およびホテル建設の事業説明を行い、さらに要望などへの対応策などについて説明を行った。

「うるおい館(仮称)およびホテルの建設事業

は、市街地再開発事業であり、町民各位の期待も大きなものである。

要望 近隣住民が町に送った書簡を紹介する。

百匹の羊の中の1匹が迷っていなくなったとき、飼い主が大変心配して、まるで99匹の命を合わせたほどに、その1匹の命を案じたそうです。

中略

町おこし、町の活性化など津々浦々で叫ばれているこの頃ですが、私たちが犠牲にして一人ひとりの生活を壊すというところがないように配慮して、町づくりを進めてほしいものです。

今は、嬉しい我が家。

知合いの方々が時々訪ねて来てくれます。この正月は子どもたちで賑わいました。昨年のお盆には、ひ孫も元気な姿を見せてくれました。しかし、高齢者の弱み、皆様から「お前、歳だろう、お迎えも、そう遠くない。町のために家のことは我慢しろ」など、あれこれ言われな

いかと疑心暗鬼。あの世へ行つたとき、夫の怒っている顔を見たくなく、どうぞ、私の家を守って下さいますようお願い申し上げます。

以上の書簡に十分配慮していただきたい。



上野 等 議員



高齢者にわかりやすい税務相談

高金利の町債を新制度で繰上げ償還せよ

町長 新制度の対象外で利用はむづかしい



長田 武志 議員

問 町には、バブル期に借入れた政府系資金で、年5%以上の高金利の町債が残っている。国は、財政健全化計画を策定し

行政改革に取り組んでいる自治体に、補償金なしでの繰上げ償還を認めた。その新制度を利用して、繰上げ償還すべきと思うが。

町長 制度の改正案では、財政指数が一定以上悪化してなければ認めない。入善町は、健全な財政指数なので、今度の恩恵は受けられない。

高齢者の税負担増の周知徹底をすべき
パンフレットやケーブ
ルテレビで再度周知

問 税制改正により老年者控除の廃止や、公的年金の基礎控除額の引き下げ、所得125万円以下の方は非課税処置の廃止

など、高齢者の税負担が高くなっている。

高齢者の税負担増に対して周知すべきではないか。

福島税務課長 周知については、農業収支説明会および申告相談時に説明している。

また、国から地方への税源移譲および定率減税の廃止による住民税の増加については、町のホームページ、広報2月号、ケーブルテレビなどで、周知に努めた。
今後ともパンフレットやケーブルテレビなどで、周知徹底する。

今、共同調理方式に進むべきでないか

年内に西中と上青小学校で試行を実施

問 学校給食検討委員会の答申は、「全小中学校が単独調理方式で行うのではなく、児童生徒数にあった適正規模で調理を行う共同調理方式が望ましい」とある。

答申を受け入れ、今、共同調理方式に進むべきではないか。

教育長 検討委員会の答申の主な内容は、中間報告に沿ったものだ。

「共同調理方式や民間業務委託の試行も視野に、町民の理解を図るよう努めながら進めよう」であった。

その答申を踏まえて平成19年度は、秋から冬に

かけて、入善西中学校と上青小学校において、共同調理方式の試行を実施したいと考えている。

行革を考えセンター方式も視野に入れるべきだ
今後の研究課題として議論したい

問 町財政状況が今後厳しくなれば、行財政の見直しが必要となる。

将来的にセンター方式も視野に入れるべきではないか。

教育長 行革の視点に立つて考えれば、センター方式は大きなメリットがある。

反面、改善しなければならぬところもあり、今後の研究課題として議論したい。

増税で保育料の負担増にならないよう 見直しが必要である

助役 見直しを前提に検討したい

問 定率減税の半減による所得税増で、保育料の負担増が心配される。見直しが必要である。見
助役 見直しを前提に検討したい。



元気で遊ぶ子どもたち(野中保育所)

問 「町は1小学校下1
健康福祉課長 かつては
全町で1300人程入所
していたが、今は900
人程だ。

問 統合保育所は、早朝・
延長保育など、住民要望
を踏まえ、ひばり野小学
校に隣接して建設したい。

子どもの医療費無料化
を拡大するのか

今の制度を堅持する

問 子どもの医療費無料
化について「県下で最高
水準を堅持する」として

いるが、対象を6年生ま
で拡大するというとか。
健康福祉課長 新年度で
県下の3自治体が6年生
まで助成する。町は、今
の助成制度を堅持し、子
育て支援に努める。

自立支援法の特別対策で
利用者への影響はどうか

約半数が負担軽減になる

問 障害者自立支援法の
見直しを求める国民の運
動で、国は急ぎよ、特別
対策をとるが、負担軽減
になる利用者は何人か。
また、町内事業者の運
営への効果はどうか。
制度の根本の見直しを
国に要求し、町独自の利

用軽減が必要である。
健康福祉課長 約半数の
利用者が負担軽減になる。
3つの事業所が行う送迎
サービスに800万円余
を助成する。

町独自の軽減の考えは
ない。利用者の自助努力
で負担してほしい。

介護にかかわる業務は
町が責任を持つべき

地域包括支援センター
で進める

問 高齢者世帯で介護が
必要になると事態は深刻
だ。介護に関わる一連の
業務は、地域包括支援セ
ンターが果たすべきだ。
また、町が、実態を日
常的につかむことなしに、
町民の福祉は守れるか。
介護保険料減免条項の
一定額の預貯金額とはい
くらか。この条件はやめ
るべきである。
要介護認定者の障害者
控除の適用について、ど

う検討をしたのか。
健康福祉課長 地域包括
支援センターは、介護予
防を進めることである。
高齢者の実態把握や、相
談・支援などをおこなっ
ていくことは重要だ。

保険料減免の預貯金額
は、70歳以上の1人世帯
では約80万円となる。減
免基準の緩和は、これ以
上必要ないと考える。制
度のPRに努めたい。

障害者控除の適用は、
近隣市町とも協議、検討
したい。

後期高齢者医療保険の
運営機構の改善を

必要性を見極め判断
する

問 各市町村長が、後期
高齢者医療広域連合の運
営に立案段階から参画で
きるよう、任意の理事会
設置を提案すべきだ。
町長 必要性を見極め判
断したい。



九里 郁子 議員



指定管理者制度のサンウェル

三位一体改革による税源移譲はどうか 町長 個人町民税では 3億8000万円増を見込んだ



大林 政雄 議員

問 町税の当初予算計上額は37億820万円、前年度に対し7億2080万円の増、伸び率24・1%となっている。

この中で税源移譲の対

象である個人町民税は、13億8820万円とあるが、これは前年度と比較して、4億4150万円の増になる。

この予算計上の見積根拠はどうか。

税務課長 従来、個人町民税は平均税率で4・3%であった。しかし、税源移譲により6%に統一される。

また、所得の伸びについては、町内企業に照会したところ、2%の伸びと見込んだ。

以上のことから平成19年度、個人町民税として、全体で4億4150万円の増加となる。その内の税源移譲分は3億8000

万円程度である。

問 交付税のもととなる国の税収が増えれば、約3割が地方に回ることになる。平成19年度の国の予算は、82兆8800億

で税収は18年度より6兆から7兆円増えると見込まれる。

にもかかわらず、19年度の一般会計予算中、交付税予算計上額は、前年度より減少しており、理解出来ない見積りとなっている。

この根拠を示せ。

町長 国税の伸びは、国の借入れ廃止や償還などに回っている。したがって交付税の増加にはつながらず、むしろ減額にな

る見通しだ。
町は、対前年度3・8%の減と見込んでいる。

公的施設の指定管理者制度の効果はどうか

経費節減につながっている

問 平成16年3月、町の指定管理者の指定に関する条例が制定された。

町民会館など8施設に指定管理者制度が導入された。

導入後1年が経過し維持管理上の問題点も明白になっていると思われる。次の諸点について答えよ。
①導入後、利用者の影響はどうか。サービスの低下はないか。
②導入の成果、経費の節減は見込まれるか。また、職員の減は何名か。
③指定期間は、3年から5年とされているが適当

と判断しているか。
総務課長 今のところサービスの低下はないと思われる。

平成18年度に移行した4施設では、合わせて1716万円の経費削減となった。職員は8名の削減である。
指定期間は、全国でも3から5年がほとんどである。

*税源移譲とは

地方分権を進めるため、国から地方へ税源を一部移すもの。
具体的には、国税である所得税を軽減し、その分、地方税を増やすことで移譲される。今回移譲される税源は、全国で、おおよそ3兆円である。

失敗は許されない アワビ養殖技術確立の研究

農水商工課長 県水産試験場から十分指導 するとの約束を得ている

問 19年度計画するアワビ養殖技術確立の研究は、大きな経費投入であり、今、更なる失敗は許されない。



大きな償却費を抱え、再開を待つアワビ養殖施設

メーカー、県などの専門家を集め、科学的な実験計画を立案せよ。

また研究責任は誰か、技術確立とは何か、その保証、など明確にせよ。

農水商工課長 佐賀県の企業が、表層水で養殖している、循環による加温コストの削減に着目した。県水産試験場から十分に指導すると約束を得ている。

今回の実験は事業実施主体の入善漁協が行うものである。

循環式で水質確保できるのか

北電との共同実験で実証済みである

問 従来、水の劣化が原因でアワビが死に、対策として水の毎日交換、清掃、濾過設備の能力アップなど行ってきた。

今回の実験は、循環式にして水の補給は蒸発分だけ、その生産システムで水質確保できるのか。

農水商工課長 今回の実験は、オゾンと光合成による水質改善と硝酸濃度の低下を狙ったものだ。昨年、北陸電力と、オゾン使用による飼育水の改善、加温コストの節減など共同実験で実証済みである。

課題を整理し事業計画を再構築せよ

入善漁協に主体性を持たせながら検討する

問 アワビ養殖事業が成立するための、課題を整理し事業計画を再構築すべきだ

農水商工課長 事業は①飼育技術の研究開発②原価③生産方法④販売戦略から成り立っている。

適正な売価設定と経費削減により、健全な収支計画になるよう今回の実験も踏まえ、入善漁協に主体性を持たせながら検討していく。

国保の基金残高が減り財政ピンチではないか
20年4月に向け準備をしたい

問 国保の基金積立て残高は、19年度末で680万円となり、適正水準5%に対して0.2%と低い。国保会計はピンチではないか。

税率のアップは避けられないのでは。
町長 町は15年の税率改正以来改定することなく年度ごとに不足する財源

については基金を取り崩して対応してきた。

今年度は厳しい状況であるが、新たな町民負担を増やさず新年度の予算編成を行った。

新たな医療制度がスタートする20年4月に向け準備をしたい。

生活習慣病予防対策を広く進めよ

「働き盛りの元氣わくわく教室」を開いている

問 生活習慣病は、国民医療費の3割、死亡数は6割を占める。その予防対策を広く進めよ。

健康福祉課長 町は14年「健康にゆうぜん21」を策定し、高齢期の健康づくりに取り組んできた。

昨年度から「働き盛りの元氣わくわく教室」に取組んでいる。生活習慣改善への意欲の向上、運動継続への動機付けなどに大きく寄与している。



中瀬 範幸 議員

子育ては楽しい

入善町に移り住んで



家族

流 史子 さん

入善上野在住

広島県出身の私は、長野県で学生時代に夫と知り合い、結婚して夫の故郷入善に来ることになりました。遠いので心配する人もいましたが偶然入善町に住む友人もおり、不安もなく町の住民になりました。

その年の春風は、特に強かった事が印象に残っています。また、冬の雪の多さに驚きましたが、白一面の景色には感動しました。
入善では、魚屋に地元で捕れた見たこともないような活き活きした魚がならび、そしてそれが、とても美味しい。これも驚きでした。
水と空気、自然も豊かな入善で10年が過ぎました。子供

たちも5年生、3年生、1年生に保育所と4人になりました。

両親に手伝わってもらっての子育ては、毎日が新たな発見で日々楽しく生活しています。

上の子は下の子の面倒を見てくれ、子育ても楽になりました。児童センターや西部児童館など町の施設も利用させていただいております。休日にはみんなで図書館へ。読みたい本は自分たちで選びます。

何冊も借りて楽しんでいきます。広島県の友人は、入善町の第4子以降の子宝支援や保育所待機児童がいらないことを、とてもうれやましいと言います。

これからは建築自営業の夫を助け、仕事でも良きパートナーとして協力し、家族が楽しい毎日となるよう、働いてまいりたいと思います。

入善のむかし話 (森清松編より)

「墓ノ木の川神さま」

むかし、愛本新中ノ口の立野五郎右衛門という人がふしぎな夢をみました。

「わたしは、黒部の川の中にある石である。いままでも、たびたび洪水があったが、わたしは村へ水がながれこまないように守ってきた。そろそろ安全なところへうつして、まつってほしい。」

川神さまが枕神にたれたのです。そこで、雨ざらしになっていた大石を、押入をたてておまつりしました。お祭りをするようになったのは、明治維新よりあとのことです。

また、つぎのような説もあります。むかし、大洪水のとき、墓ノ木の村もあぶなくなり、村人たちは、どうすることもできず、台地にたつて、ただながめるばかりでした。

このとき、ひとりのたくましい男が、がけの下から洪水の中へ入っていき、仁王立ちになって水をとめたため、水の流れがかわって村は流れずになりました。

つぎの日の朝、水がおさまってからみると、この男の立っていたあたりには大きな黒みかげ石があったので、

「これは神様の生まれかわりにちがいない。」
と、お宮をたて、おまつりしたというのです。



墓ノ木水神社

編集の窓

町民の皆様にご利用いただきありがとうございます。

このたび、入善町議会が平成18年度全国町村議会議長会より優良表彰を受賞いたしました。

受賞した理由は、議事録をホームページで公開したり、議会だよりの編集を議会広報特別委員会メンバーでパソコン編集したりしている実績が評価されたものです。

議会だよりの創刊されてから30年を超え、先輩諸氏から受け継いだ多くのノウハウが集約されています。

今後も、更に読みやすい広報誌をめざして、一同がんばってまいります。

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 議長 | 元島 正隆 |
| 委員長 | 松澤 孝浩 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員 | 大橋美椰子 |
| " | 長田 武志 |
| " | 中瀬 範幸 |
| " | 鬼原 征彦 |

地球にやさしい再生紙を使用しています